

告 辞

青空が澄み渡る素晴らしい日となりました。学部卒業生並びに大学院修了生の諸君！おめでとうございます。琉球大学の在學生と教職員を代表して、諸君の卒業並びに修了を心から祝福申し上げます。

今日の良き日に、ご家族・保護者、ご来賓、並びに同窓の皆様のご臨席の下、琉球大学の平成 30 年度学部卒業式並びに大学院修了式を挙げていただけますことは、私どもの大きな慶びとするところでございます。

本日、学部生 1,533 名、特別支援教育特別専攻科修了生 4 名、大学院生 275 名、総計 1,812 名の諸君が、めでたく卒業・修了を許可されました。限りない可能性を秘めた 1,812 名の諸君を、琉球大学のキャンパスから社会へ送り出すことができ、感無量であります。諸君のこれからの健闘と活躍を大いに期待して止みません。

諸君が琉球大学から旅立つ今年は、十二支最後の亥年であり、平成最後の卒業・修了式となります。私の学長としての任期もこの 3 月末で終了しますので、これが私の最後のメッセージとなります。“最後”という言葉は、最初や始まりを内包している言葉です。本日卒業・修了する諸君にとっても、大学生活の終わりはそれぞれの新たな人生の始まりでもあります。きっと諸君は、新鮮な気持ちで明日を迎え、人生の次の時間を大切に刻みつつ、豊かな自分史を築き上げていくことでしょう。希望と可能性に満ちた諸君の将来に乾杯を献げます。

ところで、私たちの周りを見渡すと、あまりにも強者の論理が支配しているように思えます。この 4 月で平成も終わりますが、平成の初期の頃に比べても、その感を強くします。本日めでたく本学を卒業または修了する諸君には、弱者をいたわる心を持っていただきたいと心から希望します。

強者と弱者の線引きを行うことは、たいへん難しいことです。それぞれの個人にとっての強者と弱者があり、また身体能力、年齢、性別、学歴、職業、収入、人種、宗教、国籍などによって大まかにグルーピングされることもありますが、あくまでも相対的な概念です。とはいうものの、強者に力の強い者、富める者、権力の座にある者などを含め、弱者に力の弱い者、貧しい者、老いたる者、病める者、幼児・児童など弱い立場の人を含めることに異論はないと思います。虐待に遭っている動物たちも、弱者に含めることができます。

問題は、強者の弱者に対する暴力や暴行などの物理的虐待、ハラスメント、いじめ、ヘイトなどの精神的虐待、悪徳商法や搾取などの経済的虐待などが行われ、人間の尊厳や人権、生命の尊さを蔑ろにする行いが蔓延していることです。虐待や暴力によって子どもなど弱い者の命が奪われる、という痛ましい事件などがその典型例です。

最近この国では、強者のみが生き残って繁栄することが許され、弱者は生存競争に負けて淘汰されても構わない、と言わんばかりの経済社会の仕組みができているように思われます。平成に入る以前から、この国は市場原理主義に基づく競争社会を国の形としてきました。競争社会では、勝ち組と負け組が生まれます。一般的には、強者が勝ち組となり、弱者は負け組になることがほとんどです。勝ち組が強者の論理で、強者にとって有利な社会の実現を押し進めていきます。こうして、思い遣りや絆が薄弱な社会になりつつあるのは残念なことです。

加えて、今世紀に入り、弱者に自己責任論を押しつける風潮が強くなっていて、弱者を生み出しているのが、経済社会構造の歪みや政策欠如の問題であることに考えが及んでいません。もっと、弱者をいたわる政策や制度の拡充が必要です。競争社会は、強者にとっては居心地の良い社会ですが、弱者にとっては不安、差別、格差などに晒される不安社会そのものにほかなりません。この不安社会を補うものとして、競争社会の中に、社会正義、公正、平等の観点から共に協力して創り上げていく“共生コミュニティ”を組み込んでいく必要があると考えています。

共生コミュニティは、他者を思い遣り、相互に理解を深め、助け合い、励まし合い、協力して共に生きていくというような“マインドウェア”が優位となる空間です。これは、“チムグクル”という沖縄の言葉で表現できる、他者を思い遣る世界です。共生コミュニティでは、生活の安全の網から落ち零れていく弱者を、人間の絆によってすくい上げることができるのです。そのような仕組みを競争社会の中に組み込んで、負け組や弱者を支えることが、社会全体としての福祉や幸福感の向上を実現する鍵なのです。

琉球大学においては、学生修学支援基金やユイマール基金などをつくって、困窮学生への修学支援や授業料免除を行うとともに、沖縄の子どもの貧困問題の根源にあるシングルマザーの就業支援・能力開発支援や子どもの居場所へ学生

ボランティアを派遣する事業などを展開しています。これらが、琉球大学が具体的に取り組んでいる、共生コミュニティのモデルにほかなりません。

本学の建学の精神は、第16代アメリカ大統領・エイブラハム・リンカーンの思想を集約した「自由平等、寛容平和」です。弱者に対して人間としての尊厳を守るためには、人間の多様性（ダイバーシティ）を認める寛容な心が大事であり、また生命の尊さは平和で心豊かな社会を実現・維持する中で実感されます。どうぞ、建学の精神に謳われる寛容平和な心をもって、人間の尊厳を大切にしながら、俯瞰的に対応できる視座を持ち続けて下さい。

言うまでもなく、この世で必要とされていない人はいません。相手の人格を否定せず人が人として存在する、その社会的存在を認めることのできる、寛容な心を持ち続けてもらいたいということを諸君に申し上げたいのです。一度しかない人生、いろいろなことにチャレンジして多くの経験を積んでください。その経験の中で、人間として幅の広い寛容さを培い、弱者をいたわる心を持っていただきたいと希望します。

機会や成果の平等・不平等に関わる問題において、強者と弱者の差が明確に出てきます。その背景には、選択の自由が保障されているかという問題があります。選択の幅を広げるためには、個人の持っている潜在能力を引き出すことによって創造性（クリエイティビティ）を発揮させることが必要であり、ここに大学の存在意義があります。

諸君、どうぞクリエイティブに、そして寛容の心を持って豊かな人生を送ってください。本日は、誠におめでとうござります。

平成 31（2019）年 3 月 20 日
第 16 代学長 大城 肇